



はねかえせ！ 初期害虫、 チョウ目害虫。



- 新規殺虫剤「ヨーバル®」
- 高密度播種に高い適用性
- は種前から移植当日まで使用可能



製品情報はこちら

慣行播種
箱当り
50~75g

高密度播種
箱当り: 50~100g
(1kg/10aまで)



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>
お客様相談室 ☎0120-575-078
9:00~12:00, 13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

はじめに

ヨーバル[®]箱粒剤は、水稻箱処理剤として開発された殺虫剤です。

殺虫成分のテトラニプロールは、バイエル クロップサイエンス社が開発したアントラニルアミド構造を有する新規ジアミド系殺虫剤で、コウチュウ目や、チョウ目害虫に高い防除効果を示します。

本剤はBCI-171粒剤の試験コード名で一般社団法人日本植物防疫協会を通じて公的試験が実施され、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガなどの水稻主要害虫に優れた効果を示すことが確認され、令和2年2月12日付で新規農薬登録を取得しました。

この技術資料は、これまでに得られた知見を基に、本剤の特長や試験成績などを取りまとめたものです。これからの防除計画や高品質な収穫物を得るための一助として活用頂けると幸いです。

ヨーバル[®]箱粒剤の特長

●新規殺虫剤「ヨーバル[®]」

「ヨーバル[®]」(有効成分:テトラニプロール)は、バイエル クロップサイエンス社により開発された、アントラニルアミド構造を有する新しいジアミド系殺虫剤です。初期害虫のイネミズゾウムシ、イネドロオイムシや、チョウ目害虫のニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガ等、水稻の主要害虫に高い効果を示します。

●は種前、は種時から移植当日まで使用可能！

覆土、床土混和や、は種時覆土前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

●高密度播種へ高い適用性。

高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50～100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)

●慣行播種でも、50～75g/箱の範囲で使用可能。

目次

はじめに/特長2

有効成分の名称および物理的・化学的性状等/安全性(製剤)/適用害虫および使用方法3

テトラニプロールの作用機構4

テトラニプロールの作用特性/ヨーバル[®]箱粒剤の水稻への安全性5

害虫への効果6

新農薬実用化試験 概評(抜粋)9

有効成分の名称および物理的・化学的性状等

- 商 品 名:ヨーバル[®]箱粒剤
- 農林水産省登録:第24328号
- 試 験 名:BCI-171粒剤
- 種 類 名:テトラニプロール粒剤
- 有効成分および含量:テトラニプロール…1.5%
- 性 状:類白色細粒
- 有効年限:4年

有効成分名	テトラニプロール
化学名	1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-メチルカルバモイル-3-[[5-(トリフルオロメチル)-2H-テトラゾール-2-イル]メチル]ピラゾール-5-カルボキサニリド
構造式	
分子量	544.88
融点	226.9～229.6℃
水溶解度(20℃)	1.0mg/ℓ(pH4)、1.0mg/ℓ(pH7)、1.3mg/ℓ(pH9)
蒸気圧	3.2×10 ⁻⁶ Pa(20℃)、4.6×10 ⁻⁶ Pa(25℃)
オクタノール/水分分配係数(log Pow)	2.6(25℃)
作用機構(IRACコード)	リアノジン受容体モジュレーター (28)

安全性(製剤※)

人畜毒性:普通物*

急性経口毒性 (ラット♀)	LD ₅₀ >2,000mg/Kg
急性経皮毒性 (ラット♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/Kg
皮膚刺激性 (ウサギ)	刺激性なし
眼刺激性 (ウサギ)	刺激性なし
皮膚感受性 (モルモット)	感受性なし(ただしテトラニプロールに皮膚感受性あり)

水産動植物への影響

魚類急性毒性(コイ)	LC ₅₀ (96時間)	>1,000mg/ℓ
ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ)	EC ₅₀ (48時間)	0.538mg/ℓ
藻類生長阻害(緑藻)	ErC ₅₀ (0～72時間)	>1,000mg/ℓ

*「毒物および劇物取締法」に基づく毒物・劇物に該当しないものを指して言う通称
※テトラニプロール・インシアニル粒剤の試験成績による代替

適用害虫および使用方法

(2022年2月現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネツトムシ イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ イネミズゾウムシ コブノメイガ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～75g	は種前	本 剤：1 回 テトラニプロール：1 回	育苗箱の床土または 覆土に均一に 混和する。
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)	は種時(覆土前) ～移植当日		育苗箱の上から 均一に散布する。

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

⚠ 注意事項

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用して下さい。
また本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがありますので注意して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けて下さい。

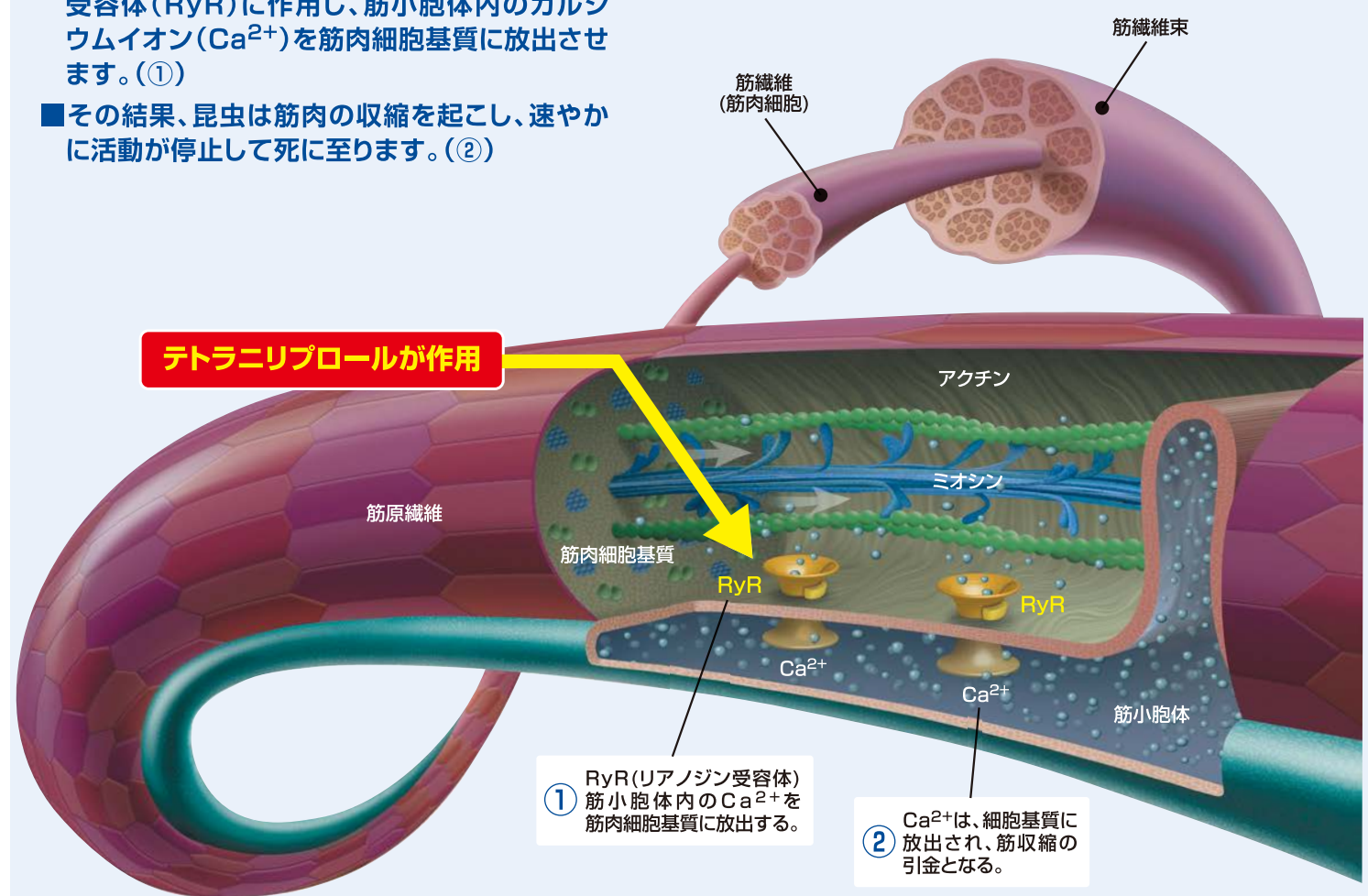


- 使用の際は農作業マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

◎播種同時施薬機や田植同時施薬機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

テトラニプロールの作用機構

- テトラニプロールは、筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に作用し、筋小胞体内のカルシウムイオン(Ca^{2+})を筋肉細胞基質に放出させます。(①)
- その結果、昆虫は筋肉の収縮を起こし、速やかに活動が停止して死に至ります。(②)



●テトラニプロールによる症状

2019年 バイエルクロップサイエンス(株)社内試験



- 品 種: ヒヨクモチ
- 対象害虫: コブノメイガ
- 処理方法: 小さなポットで栽培した苗(15~17cm)を1ppmに調製したテトラニプロール溶液(Toriton X-100を0.1%になるように加用)に20秒浸漬し、風乾。
- 接種方法: 風乾後、5~7cmに切った葉片10枚をシャーレに入れ、約10頭のコブノメイガ幼虫(5~7mm)を接種。接種3日後に調査。

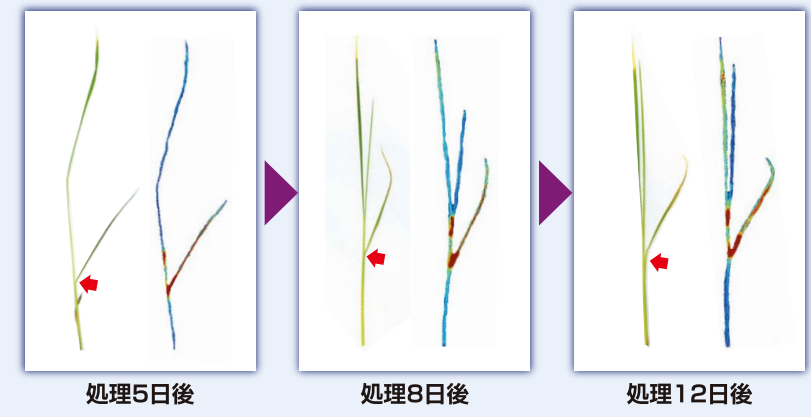
テトラニプロール処理により、摂食活動の停止と虫体萎縮症状が見られました。

テトラニプロールの作用特性

- テトラニプロールは優れた浸透移行性を有します。

●浸透移行性確認試験

2018年 バイエルクロップサイエンス(株)社内試験



●温室試験: 14℃でラベルしたテトラニプロール($3\mu\text{g}/5\mu\text{l}$, RME0.1%加用)をイネの第1葉(●)に1滴滴下し、有効成分の分布を調査。

- テトラニプロールは水稻害虫に対し幅広い殺虫スペクトラムを有します。

害虫名		テトラニプロールの殺虫スペクトラム (水稻(育苗箱))
チョウ目	ニカメイチュウ	○
	コブノメイガ	○
	フタオビコヤガ	○
	イネツトムシ	○
コウチュウ目	イネドロオイムシ	○
	イネミズゾウムシ	○
カメシ目	ツマグロヨコバイ	○
ハエ目	イネヒメハモグリバエ	○
バッタ目	コバネイナゴ	○

○: 殺虫活性あり
□: 特に活性の高い害虫

ヨーバル[®] 箱粒剤の水稻への安全性

- ヨーバル[®] 箱粒剤は水稻へ高い安全性を有し、は種前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

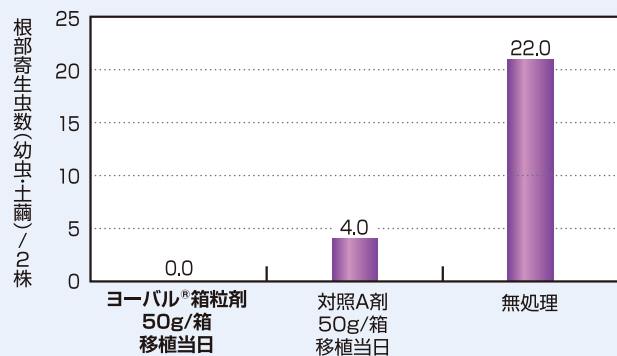
●使用して問題の無かった水稻品種、育苗用培土の事例(慣行播種／は種時覆土前処理での確認事例)

水 稻 品 種	育 苗 用 培 土
あきたこまち、あさひの夢、 キヌヒカリ、こしいぶき、コシヒカリ、 しずく媛、つがるロマン、はえぬぎ、 ハナエチゼン、ひとめぼれ、 ヒノヒカリ、まいひかり、 まっしぐら、松山三井、ゆめみづほ	JA 水稻まる特培土、 JA 普通期用水稻用床土、 イセキ培土、イセキ培土ライト、 いなほ培土、大網培土、サン培土、 水稻育苗培土これ一番 暖地用、 粒状かがやき水稻培土、 牟セキ田植機用育苗専用培土

害虫への効果

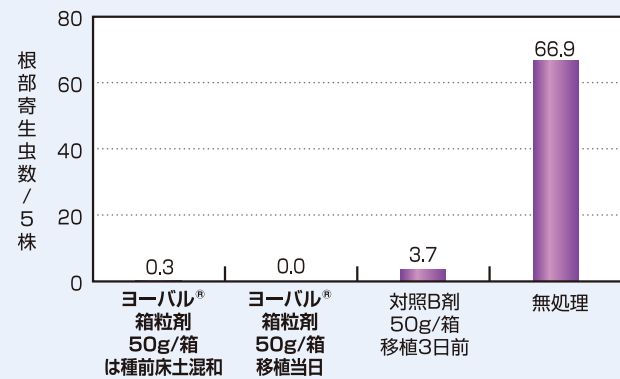
■イネミズゾウムシへの効果

2017年 岩手県植物防疫協会



●品種：あきたこまち ●発生状況：中発生
●は種：4月18日 ●移植：5月18日
●調査：6月11日(移植24日後)

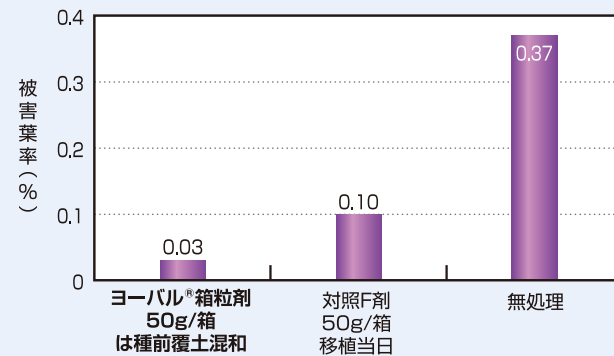
2017年 (公社)青森県植物防疫協会



●品種：つがるロマン ●発生状況：多発生
●は種：4月17日 ●移植：5月21日
●調査：7月7日(移植47日後)

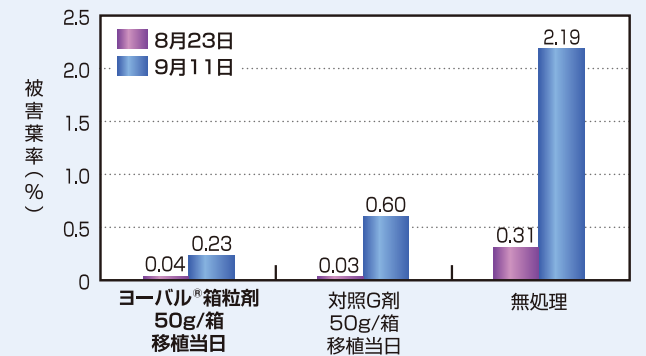
■コブノメイガへの効果

2017年 愛媛県農林水産研究所



●品種：松山三井 ●発生状況：少発生
●は種：6月2日 ●移植：6月22日
●調査：8月21日(移植60日後)

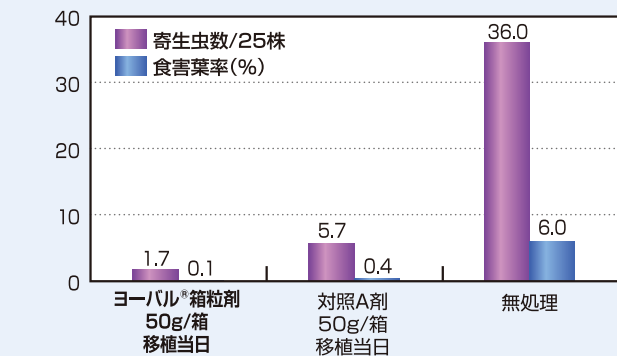
2017年 (一社)日本植物防疫協会 岡山試験地



●品種：にこまる ●発生状況：少発生(第一、二世代)
●は種：5月28日 ●移植：6月20日
●調査：8月23日(移植64日後、第一世代)、9月11日(移植83日後、第二世代)

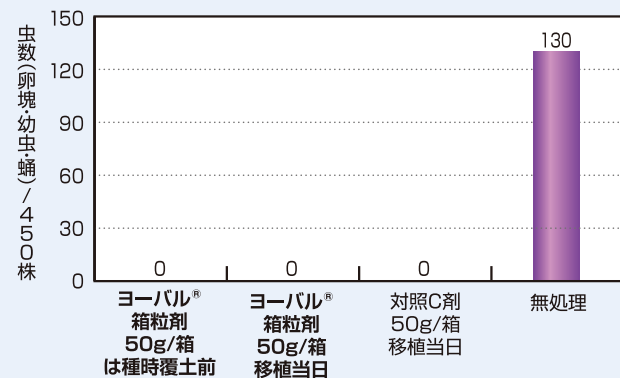
■イネドロオウムシへの効果

2017年 (一社)岩手県植物防疫協会



●品種：あきたこまち ●発生状況：中発生(放虫)
●は種：4月18日 ●移植：5月18日
●調査：6月26日(移植39日後)

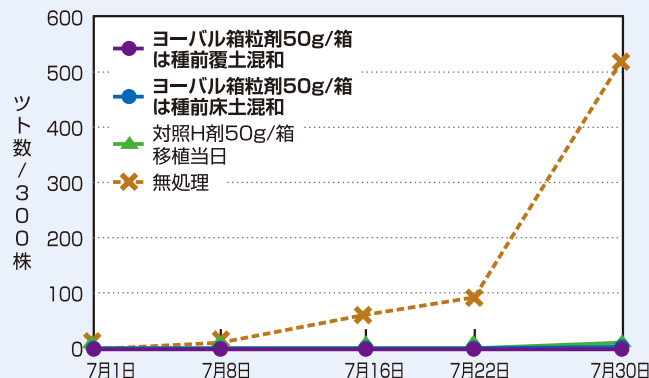
2017年 (一社)宮城県植物防疫協会



●品種：ひとめぼれ ●発生状況：少発生(放虫)
●は種：4月1日 ●移植：5月5日
●調査：6月29日(移植55日後)

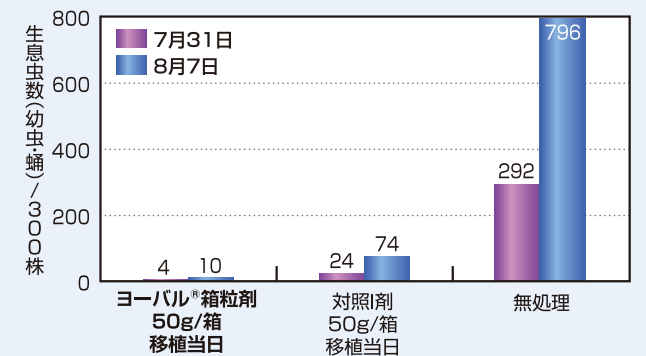
■イネツトムシへの効果

2018年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所



●品種：あさひの夢 ●発生状況：中→甚発生
●は種：5月23日 ●移植：6月15日
●調査：7月1日、8日、16日、22日、30日(移植16、23、31、37、45日後)

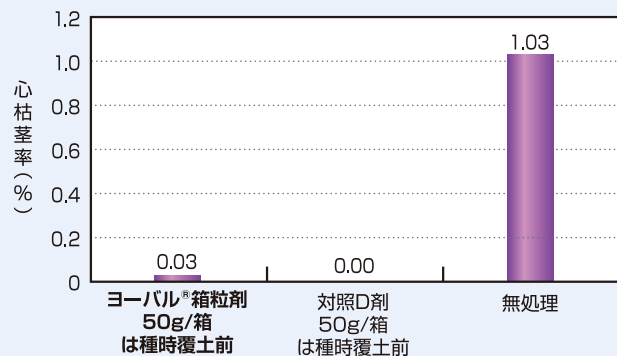
2017年 長野県農業試験場



●品種：あきたこまち ●発生状況：多発生
●は種：6月6日 ●移植：6月23日
●調査：7月31日(移植38日後)、8月7日(移植45日後)

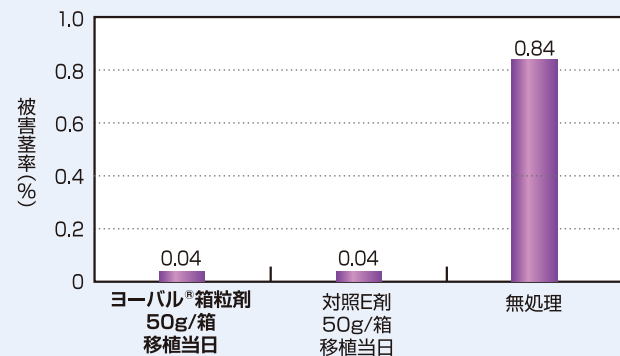
■ニカメイチュウへの効果

2017年 (一社)福井県植物防疫協会



●品種：ハナエチゼン ●発生状況：中発生
●は種：4月9日 ●移植：5月2日
●調査：7月20日(移植79日後、第一世代)

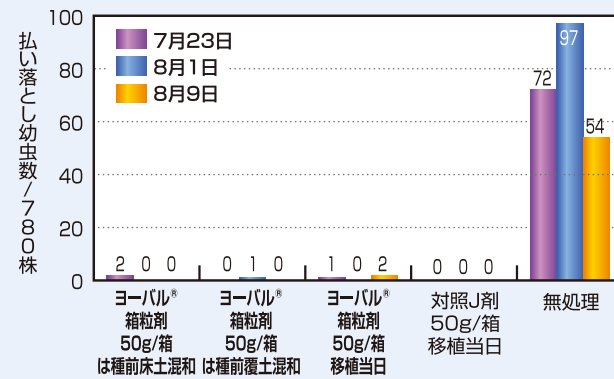
2017年 鳥取県農業試験場



●品種：きぬむすめ ●発生状況：少発生(接種)
●は種：5月9日 ●移植：5月30日
●調査：8月5日(移植67日後)

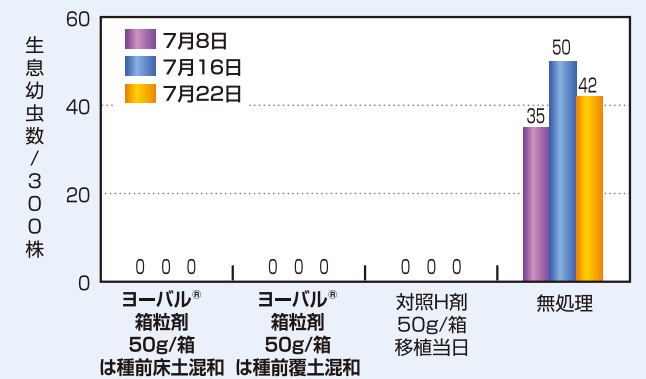
■フタオビコヤガへの効果

2018年 油日アグリサーチ(株)



●品種：キヌヒカリ ●発生状況：少発生
●は種：4月23日 ●移植：5月16日
●調査：7月23日、8月1日、9日(移植68、77、85日後)

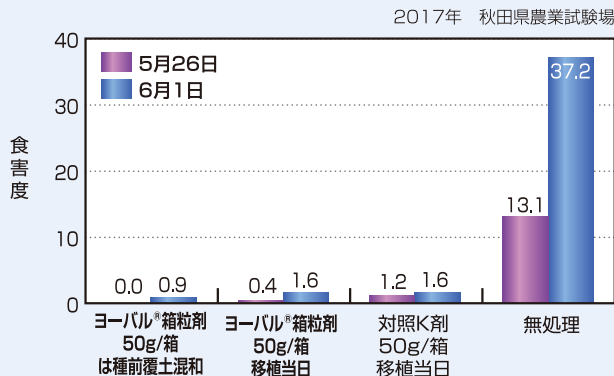
2018年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所



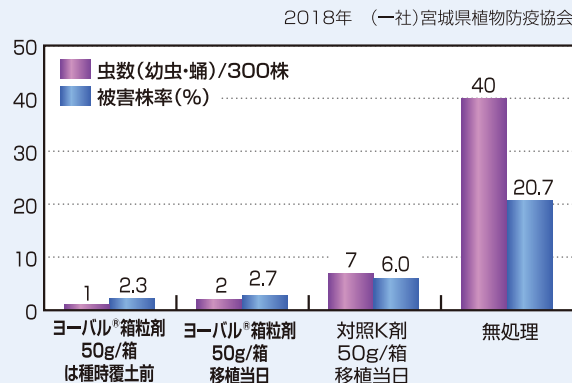
●品種：あさひの夢 ●発生状況：中発生
●は種：5月23日 ●移植：6月15日
●調査：7月8日、16日、22日(移植23、31、37日後)

害虫への効果

■イネヒメハモグリバエへの効果

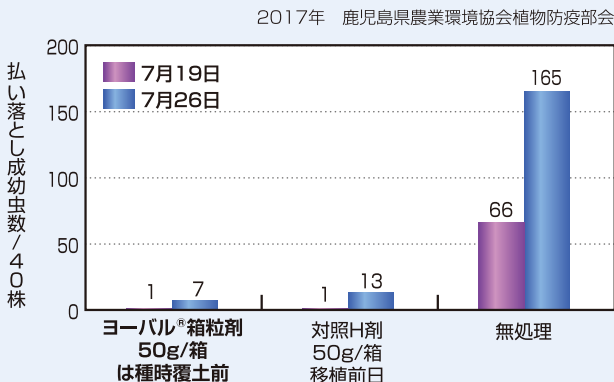


●品種：あきたこまち ●発生状況：中発生
●は種：4月11日 ●移植：5月12日
●調査：5月26日(移植14日後)、6月1日(移植20日後)

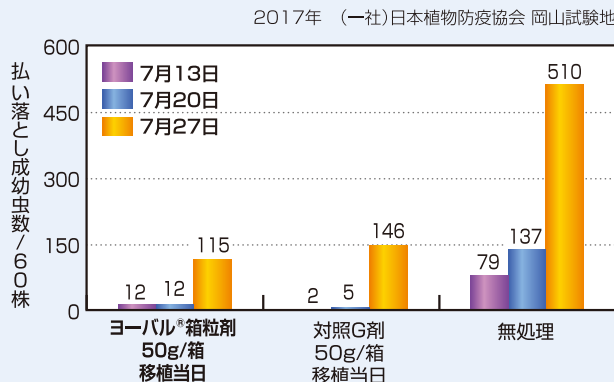


●品種：ひとめぼれ ●発生状況：少発生
●は種：4月7日 ●移植：5月5日
●調査：5月29日(移植24日後)

■ツマグロヨコバイへの効果

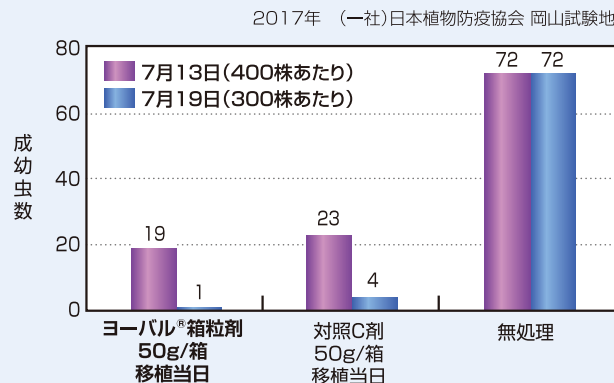


●品種：ヒノヒカリ ●発生状況：多発生
●は種：5月26日 ●移植：6月14日
●調査：7月19日、26日(移植35、42日後)

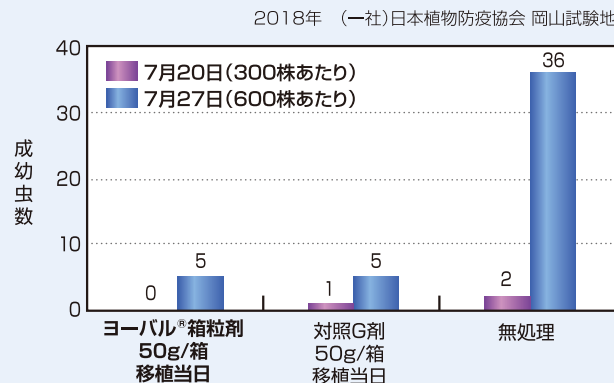


●品種：にこまる ●発生状況：中発生
●は種：5月28日 ●移植：6月20日
●調査：7月13日、20日、27日(移植23、30、37日後)

■イナゴ類(コバネイナゴ)への効果



●品種：にこまる ●発生状況：中発生
●は種：5月28日 ●移植：6月20日
●調査：7月13日、19日(移植23、29日後)



●品種：にこまる ●発生状況：少発生
●は種：5月29日 ●移植：6月20日
●調査：7月20日、27日(移植30、37日後)

新農薬実用化試験 概評(抜粋)

実施年度	作物名(品種)	病害虫名	試験場所	発生状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効果			薬害
						処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
イネミズソウムシ	2017 稲(つがるロマン)	イネミズソウムシ	青森植	多	は種：4/17 移植：5/21	50g/箱 育苗箱施用	1	5/21 (移植当日)	B剤 50g/箱 移植3日前	A	A	A	—
	2017 稲(あきたこまち)	イネミズソウムシ	岩手植	中	移植：5/18	50g/箱 育苗箱施用	1	5/18 (移植当日)	A剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	—
	2017 稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	福島	少(放虫)	は種：4/14 移植：5/10	50g/箱 育苗箱施用	1	5/10 (移植当日)	L剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	石川植	中	移植：5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	5/8 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2018 稲(つがるロマン)	イネミズソウムシ	青森植	中	は種：4/16 移植：5/19	50g/箱 育苗箱施用	1	5/19 (移植当日)	B剤 50g/箱 移植2日前	B	A	A	—
	2018 稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	石川植	中	は種：4/6 移植：5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	5/8 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(コシヒカリ)	イネミズソウムシ	日植防山梨	多	は種：4/28 移植：5/18	50g/箱 育苗箱施用	1	4/28 (は種時覆土前)	B剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	—
	2017 稲(ひとめぼれ)	イネミズソウムシ	宮城植	少	は種：4/16 移植：5/14	50g/箱 覆土混和	1	4/16 (は種前)	C剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(つがるロマン)	イネミズソウムシ	青森植	多	は種：4/17 移植：5/21	50g/箱 床土混和	1	4/17 (は種前)	B剤 50g/箱 移植3日前	A	A	A	—

実施年度	作物名(品種)	病害虫名	試験場所	発生状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効果			薬害
						処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
イネドロオイムシ	2017 稲(つがるロマン)	イネドロオイムシ	青森植	少(放虫)	は種：4/17 移植：5/21	50g/箱 育苗箱施用	1	5/21 (移植当日)	B剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	—
	2017 稲(あきたこまち)	イネドロオイムシ	岩手植	中(放虫)	移植：5/18	50g/箱 育苗箱施用	1	5/18 (移植当日)	A剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	—
	2017 稲(ひとめぼれ)	イネドロオイムシ	宮城植	少(放虫)	は種：4/1 移植：5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	5/5 (移植当日)	C剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(コシヒカリ)	イネドロオイムシ	日植防山梨	中	は種：4/28 移植：5/19	50g/箱 育苗箱施用	1	5/19 (移植当日)	B剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2018 稲(ひとめぼれ)	イネドロオイムシ	宮城植	少(放虫)	は種：4/9 移植：5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	5/8 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2018 稲(コシヒカリ)	イネドロオイムシ	石川植	中→多	移植：5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	5/8 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(ひとめぼれ)	イネドロオイムシ	宮城植	少(放虫)	は種：4/1 移植：5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	4/1 (は種時覆土前)	C剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(つがるロマン)	イネドロオイムシ	青森植	少(放虫)	は種：4/17 移植：5/21	50g/箱 覆土混和	1	4/17 (は種前)	B剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	—
	2017 稲(コシヒカリ)	イネドロオイムシ	石川植	少	移植：5/8	50g/箱 床土混和	1	4/7 (は種前)	K剤 50g/箱 移植当日	C	A	A	—

実施年度	作物名(品種)	病害虫名	試験場所	発生状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効果			薬害
						処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
ニカメイチュウ	2017 稲(ゆめみづほ)	ニカメイチュウ	石川植	多(放虫)	移植：5/7	50g/箱 育苗箱施用	1	5/7 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(ハナエチゼン)	ニカメイチュウ	福井植	中	は種：4/7 移植：5/3	50g/箱 育苗箱施用	1	5/3 (移植当日)	M剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	—
	2017 稲(コシヒカリ)	ニカメイチュウ	兵庫北部	中(接種)	は種：5/1 移植：5/19	50g/箱 育苗箱施用	1	5/19 (移植当日)	N剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	—
	2017 稲(さぬみずめ)	ニカメイチュウ	鳥取	少(接種)	は種：5/9 移植：5/30	50g/箱 育苗箱施用	1	5/30 (移植当日)	E剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2018 稲(ゆめみづほ)	ニカメイチュウ	石川植	少(接種)	は種：4/6 移植：5/6	50g/箱 育苗箱施用	1	5/6 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	—
	2018 稲(ハナエチゼン)	ニカメイチュウ	福井植	少	は種：4/10 移植：5/1	50g/箱 育苗箱施用	1	5/1 (移植当日)	D剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	—
	2017 稲(ハナエチゼン)	ニカメイチュウ	福井植	中	は種：4/9 移植：5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	4/9 (は種時覆土前)	D剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	—
	2017 稲(ゆめみづほ)	ニカメイチュウ	石川植	多(放虫)	移植：5/7	50g/箱 覆土混和	1	4/7 (は種前)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
	2017 稲(まいひかり)	ニカメイチュウ	宮崎	少	移植：6/22 出穂：9/11	50g/箱 床土混和	1	6/2 (は種前)	O剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	—

新農薬実用化試験 概評（抜粋）



	実施 年度	作物名 (品種)	病害虫名	試験 場所	発生 状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効 果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
コブノメイガ	2017	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	山口 (病虫)	第一極少 第二少	は種：6/1 移植：6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	6/20 (移植当日)	M剤 50g/箱 移植当日	第一？ 第二A	？ B	？ B	－
	2017	稲 (にこまる)	コブノメイガ	日植防 岡山	少	移植：6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	6/20 (移植当日)	G剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	－
	2017	稲 (あきほなみ)	コブノメイガ	鹿児島	少	移植：6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	6/6 (移植当日)	H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防 宮崎	少	は種：6/7 移植：6/26	50g/箱 育苗箱施用	1	6/26 (移植当日)	O剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	鹿児島植	少	は種：5/26 移植：6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	6/14 (移植前日)	O剤 50g/箱 移植前日	B	A	A	－
	2018	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防 宮崎	少	は種：6/9 移植：6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	6/28 (移植当日)	H剤 50g/箱 は種時覆土前	D	C	C	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	日植防 宮崎	少	は種：6/7 移植：6/26	50g/箱 育苗箱施用	1	6/7 (は種時覆土前)	H剤 50g/箱 は種時覆土前	C	A	A	－
	2017	稲 (松山三井)	コブノメイガ	愛媛	少	移植：6/22	50g/箱 覆土混和	1	6/2 (は種前)	F剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	コブノメイガ	鹿児島植	少	は種：5/26 移植：6/14	50g/箱 床土混和	1	5/26 (は種前)	H剤 50g/箱 移植前日	B	A	A	－

	実施 年度	作物名 (品種)	病害虫名	試験 場所	発生 状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効 果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
フタオビコヤガ	2017	稲 (はえぬき)	フタオビコヤガ	山形	少 (放虫)	は種：4/20 移植：5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	5/15 (移植当日)	I剤 50g/箱 移植当日	B	A	B	－
	2017	稲 (コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	少	は種：4/22 移植：5/13	50g/箱 育苗箱施用	1	5/13 (移植当日)	M剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (あさひの夢)	フタオビコヤガ	日植防 茨城	少	は種：5/22 移植：6/15	50g/箱 育苗箱施用	1	6/15 (移植当日)	H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (はえぬき)	フタオビコヤガ	山形	少 (放虫)	は種：4/24 移植：5/16	50g/箱 育苗箱施用	1	5/16 (移植当日)	I剤 50g/箱 移植当日	A	A	B	－
	2018	稲 (コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	少	は種：4/17 移植：5/14	50g/箱 育苗箱施用	1	5/14 (移植当日)	M剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (キヌヒカリ)	フタオビコヤガ	油日 (滋賀)	少	は種：4/23 移植：5/16	50g/箱 育苗箱施用	1	5/16 (移植当日)	J剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (コシヒカリ)	フタオビコヤガ	福井植	少	は種：4/19 移植：5/14	50g/箱 育苗箱施用	1	4/19 (は種時覆土前)	P剤 50g/箱 は種時覆土前	A	A	A	－
	2018	稲 (あさひの夢)	フタオビコヤガ	日植防 茨城	中	は種：5/23 移植：6/15	50g/箱 覆土混和	1	5/23 (は種前)	H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (キヌヒカリ)	フタオビコヤガ	油日 (滋賀)	少	は種：4/23 移植：5/16	50g/箱 覆土混和	1	4/23 (は種前)	J剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (あさひの夢)	フタオビコヤガ	日植防 茨城	中	は種：5/23 移植：6/15	50g/箱 床土混和	1	5/23 (は種前)	H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (キヌヒカリ)	フタオビコヤガ	油日 (滋賀)	少	は種：4/23 移植：5/16	50g/箱 床土混和	1	4/23 (は種前)	J剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－

	実施 年度	作物名 (品種)	病害虫名	試験 場所	発生 状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効 果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
イネツトムシ	2017	稲 (あきたこまち)	イネツトムシ	長野	多	は種：6/6 移植：6/23	50g/箱 育苗箱施用	1	6/23 (移植当日)	I剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	兵庫植	少	移植：6/10	50g/箱 育苗箱施用	1	6/10 (移植当日)	Q剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	山口 (病虫)	極少	は種：6/1 移植：6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	6/20 (移植当日)	M剤 50g/箱 移植当日	？	？	？	－
	2017	稲 (松山三井)	イネツトムシ	愛媛	少	移植：6/23	50g/箱 育苗箱施用	1	6/23 (移植当日)	F剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	－
	2018	稲 (ハナエチゼン)	イネツトムシ	福井植	少	は種：4/10 移植：5/1	50g/箱 育苗箱施用	1	5/1 (移植当日)	D剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (あきたこまち)	イネツトムシ	長野	中	は種：6/4 移植：6/22	50g/箱 育苗箱施用	1	6/22 (移植当日)	I剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	－
	2018	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	山口 (病虫)	極少	は種：5/30 移植：6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	6/20 (移植当日)	M剤 50g/箱 移植当日	？	？	？	－
	2018	稲 (しずく媛)	イネツトムシ	愛媛	極少	は種：6/8 移植：6/22	50g/箱 育苗箱施用	1	6/22 (移植当日)	F剤 50g/箱 移植当日	？	？	？	－
	2018	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	日植防 宮崎	少	は種：6/9 移植：6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	6/28 (移植当日)	H剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	イネツトムシ	日植防 宮崎	少	は種：6/7 移植：6/26	50g/箱 育苗箱施用	1	6/7 (は種時覆土前)	H剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	－
	2018	稲 (あさひの夢)	イネツトムシ	日植防 茨城	中→甚	は種：5/23 移植：6/15	50g/箱 覆土混和	1	5/23 (は種前)	H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2018	稲 (しずく媛)	イネツトムシ	愛媛	極少	は種：6/8 移植：6/22	50g/箱 覆土混和	1	6/8 (は種前)	F剤 50g/箱 移植当日	？	？	？	－
	2017	稲 (松山三井)	イネツトムシ	愛媛	少	移植：6/23	50g/箱 床土混和	1	6/2 (は種前)	F剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	－
	2018	稲 (あさひの夢)	イネツトムシ	日植防 茨城	中→甚	は種：5/23 移植：6/15	50g/箱 床土混和	1	5/23 (は種前)	H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－

	実施 年度	作物名 (品種)	病害虫名	試験 場所	発生 状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効 果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
イネヒメハモグリバエ	2017	稲 (つがるロマン)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	青森植	極少	は種：4/17 移植：5/21	50g/箱 育苗箱施用	1	5/21 (移植当日)	B剤 50g/箱 移植3日前	？	？	？	－
	2017	稲 (ひとめぼれ)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	宮城植	少	移植：5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	5/5 (移植当日)	C剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (あきたこまち)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	秋田	中	移植：5/12	50g/箱 育苗箱施用	1	5/12 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (コシヒカリ)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	島根	中	移植：5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	5/8 (移植当日)	I剤 50g/箱 は種時覆土前	C	A	A	－
	2018	稲 (ひとめぼれ)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	宮城植	少	は種：4/7 移植：5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	5/5 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	－
	2018	稲 (あきたこまち)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	秋田	少	は種：4/10 移植：5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	5/11 (移植当日)	R剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	－
	2018	稲 (コシヒカリ)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	島根	少	は種：4/10 移植：5/1	50g/箱 育苗箱施用	1	5/1 (移植当日)	I剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (つがるロマン)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	青森植	極少	は種：4/17 移植：5/21	50g/箱 育苗箱施用	1	4/17 (は種時覆土前)	B剤 50g/箱 移植3日前	？	？	？	－
	2018	稲 (ひとめぼれ)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	宮城植	少	は種：4/7 移植：5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	4/7 (は種時覆土前)	K剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	－
	2017	稲 (あきたこまち)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	秋田	中	移植：5/12	50g/箱 覆土混和	1	4/7 (は種4日前)	K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (ひとめぼれ)	ハモグリバエ類 (イネヒメハモグリバエ)	宮城植	少	移植：5/5	50g/箱 床土混和	1	4/8 (は種前)	C剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－

	実施 年度	作物名 (品種)	病害虫名	試験 場所	発生 状況	栽培履歴	処理条件			対照薬剤	効 果			薬害
							処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
シマクロヒバイ	2017	稲 (キヌヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	兵庫	少	は種：5/12 移植：6/5	50g/箱 育苗箱施用	1	6/5 (移植当日)	K剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	－
	2017	稲 (にこまる)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防 岡山	中	は種：5/28 移植：6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	6/20 (移植当日)	G剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防 高知	無→中	移植：6/1	50g/箱 育苗箱施用	1	6/1 (移植当日)	S剤 50g/箱 は種時覆土前	C	B	B	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防 宮崎	少	は種：6/7 移植：6/26	50g/箱 育苗箱施用	1	6/26 (移植当日)	O剤 50g/箱 移植当日	C	A	A	－
	2018	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	鹿児島植	中	は種：5/25 移植：6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	6/14 (移植当日)	O剤 50g/箱 移植前日	C	C	C	－
	2018	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	日植防 宮崎	少	は種：6/9 移植：6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	6/28 (移植当日)	H剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	－
	2017	稲 (ヒノヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	鹿児島植	多	移植：6/14	50g/箱 育苗箱施用	1	5/26 (は種時覆土前)	H剤 50g/箱 移植前日	B	A	A	－
	2017	稲 (松山三井)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	愛媛	少	移植：6/22	50g/箱 覆土混和	1	6/2 (は種前)	F剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	－
	2017	稲 (キヌヒカリ)	ヨコバイ類 (ツマグロヨコバイ)	兵庫	少	は種：5/12 移植：6/5	50g/箱 床土混和	1	5/12 (は種前)	K剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	－